

## 平成29年度 就労継続支援B型ペーパーミント事業報告書

利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるように、通所による就労の場を提供するとともに、個別支援計画に基づき就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の支援を適切に行いました。併せて、利用者の意思及び人格を尊重し、地域や家族その他の社会資源との結びつきを重視した事業運営に努めた。結果、安定した工賃アップとなり、利用者の就労に対する楽しみや自信、誇りを持つことに繋がった。

### 1. 事業の報告

#### (1) 就労における各作業班の報告

##### ①パン作業

- ・製造については、パン形成などの確実性、積極性等技術の向上を目指した。一人一人の得手、不得手を見極めポイントごとの声掛けを行った。結果、利用者が形成できるパンの種類が増えた。生活面では、不安定な利用者に対しては面談などをおし情緒の安定を図り、落ち着いて作業に取り組めるように支援した。また体調面に不安のある利用者については看護師や保護者との連絡や服薬等の支援を行った。
- ・販売については、企業、各学校の文化祭等のイベントでの販売を行った。販売員の接客マナーの向上に取り組んだ。また販路の拡大には力を入れて取り組んだ。高齢者施設、免許センター等の新規販売場所ができた。  
また、利用者の工賃向上を視野に入れた事業の一環で行われた、大型商業施設（パークプレイス大分）での販売に出店し、多くのお客様に、アップルミントのパン、焼き菓子を周知する事ができた。
- ・利用者自身が自覚を持ち、パン形成できるように園内でのパン作業分担表を作成した。本人の希望により、今まで形成したことがない種類のパン形成にも取り組んだ。少しずつではあるが、パンの形成精度が上がり、技術の向上が見られている。生地分割についても毎日担当を決めて取り組んでいる。
- ・新商品の開発に関しては、ソフトフランス（練乳ミルク、キャラメル、コーヒー）、ハムロールパンを製造し、購入者からは好評をいただいた。
- ・大分大学の「田舎で輝き隊」からの働きかけで野津町のピンコロ朝市（毎月1回）に参加していた。大学側の都合でH29年12月に終了した。
- ・アテオ下郡店に週3回（月・水・金）、ふらいるに週1回（木）にパンを卸している。両店舗とも、パンが大変好評で売り上げ増に結びついた。また、事業団や保育園（2か所）等の定期的な販売も売上増につながった。
- ・保育園行事などのスポットでのケーキ注文などにも積極的に取り組んだ。

## ②園芸作業

- ・主に畑で生産した野菜（じゃがいもなどの根菜やほうれん草などの葉物類、豆類等）を移動販売した。またグループホームや保護者にも販売を行った。また、地域の方が持ち込んだ野菜の委託販売にも取り組んだ。結果として地域の方との交流にもつながった。
- ・畑で生産した野菜（大根等）や持ち込まれた野菜（高菜、人参、キュウリ等）を漬物に加工、販売した。
- ・漬物（ナスの辛子漬け、きゅうりのわさび漬け、酢漬け、高菜漬け）は顧客に好評で、生産数すべてを完売した。
- ・自農園でブルーベリーを収穫。ジャムを製造し、販売を行った。
- ・契約農園からの委託で野菜の梱包・出荷作業。季節によって作業数にバラつきがあったが年間ではコンスタントな収入につながった。
- ・共同受注からの依頼でカボスの収穫作業を行った。
- ・大分市が行っている農福サポーターを利用し、カボス栽培を継続中。今後も段階的に支援を受けながら、まとまった収穫を目指している。
- ・農福連携マッチング支援事業でニラの選別作業の体験を行った。作業能力に対しては高評価を受けたが継続的な受注にはつながっていない。

## ③室内作業

- ・パン・バーガー・焼き菓子等を入れる袋の作成（シール貼り等）。
- ・ざびえる本舗、たかはし園、菊家、鶴亀フーズ、第一包装、若竹園からのしおり、箱折り、シール貼り、菓子の袋詰め等の委託作業に取り組んだ。
- ・1人1人の作業能力や正確さも向上している。新たな作業にも積極的に取り組んだ。作業量も上がり、急ぎの作業依頼にも対応する事ができた。

## ④工賃の向上に関して

- ・パン、園芸、室内のそれぞれが増収し、工賃の向上につながった。

## （2）生活訓練

### ①文化的活動

- ・日頃の作業での疲れをいやす目的で梨狩りを計画した。梨園で収穫や試食を楽しみ、実りの秋を実感することが出来た。

### ②健康・衛生面について

- ・利用者の健康を管理する目的で登園時には検温を実施している。流行性の疾患の蔓延を防ぐために家庭での状態を連絡帳等の利用で把握した。またうがい、手洗い、水分の補給等を行った。結果としてインフルエンザ等に罹患する利用者はいなかった。湿度の低い時期には加湿器を設置し、湿度管理を行った。

- ・昼食後には利用者の歯磨き後に口腔ケアを行った。齲蝕などを早く発見でき、保護者への連絡を行った。利用者の歯磨きに対する意識の変化もあり、口腔衛生の改善につながった。
- ・年1回成人病検診センター実施の健康診断を行っている。また、40歳以上の国民健康保険加入者は、市民検診にて対応した。健診結果にもとづき、看護師からの指導を各家庭に行った。
- ・利用者の高齢化に伴い、食事前に、口腔機能トレーニング（嚥下体操）を取り入れている。トレーニングに取り組む事で唾液の分泌を促し、またしっかりと噛んで食事を行うことができている。口腔機能の維持・向上につながった。

### （3）地域交流

夕涼み会や餅つき・クリスマス会など地区の方に案内状を配布し、利用者と同じ空間で過ごしていただいた。利用者が飾り付けたクリスマスツリーや各部署の商品販売、催し物を見て楽しんで頂いた。

### （4）福祉サービス相談

年2回の第3者委員を招集し、定例会議とその前月に相談日を設け、利用者の困っている事や日々の話を聞く機会を設けた。また、園生活や家庭での悩みや不満がある場合は、その都度、支援員が相談にのり、解決もしくは、不満や不安の軽減につながるよう支援している。必要であれば、保護者に連絡を取り、情報の共有をし、解決につながるよう支援した。

### （5）防災計画

月1回の避難訓練では、地震発生から火災などの2次災害を想定した訓練も取り入れ、地震時は机の下への避難、防災頭巾の着用の重要性、ガラス等が割れていることがあり、怪我を防ぐ為、裸足にならないなどを促した。避難時の集合場所を統一化（園の正門前）することも定着してきている。年2回実施している、総合防災訓練では、消防署などの関係機関から、実際の訓練の様子を見てもらい、利用者が職員の指示に従い、素早く避難できている点を評価された。また、水消火器を使用しての消火訓練も実施した。